

【2025年4月 月間予定表 一修学院校】



4月の予定

1	火	●
2	水	●
3	木	●
4	金	● 春期講習終了
5	土	
6	日	実力テスト(小3~中2) ・受験は希望制です。 ・小6SRにはご案内いたしません。……
7	月	
8	火	
9	水	第1回中3V模試 ・クラス生は全員受験いただきます。
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	高1対象 [WAYS 模試]
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	5月7日(水)から、ゴールデンウィーク明けの授業が始まります。
30	水	

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【2月度のMVP】

●旧中3生(新高1生)全員!!

本当によく頑張った。今月は公立高校組【前期合格組】【中期合格組】を表彰します!!
(私立合格組は先月のMVPだったので!!)

みんな本当にお疲れ様でした。中3生は夏期・冬期講習の時間も長く、土曜日も土曜特訓等で、毎日塾に来て勉強したな。これも1つの思い出になると嬉しいです。長く険しい道のりでしたが、ここからが本当の勉強。みんなが、高校でも良い結果を残せますように!!!!

4月行事について

●中3模試…受験生初の模試。偏差値・志望校判定・教科毎の弱点分野・各種データも充実です。

【100で生きる】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。
すべての受験が終了し、新年度が始まりました。
笑顔で卒業できた生徒、悔しくて泣いていた子、
みんな、まだまだ人生の序盤。人生ゲームでいえば、スタート地点です。

笑っていた子も、この先、つまずいたときに、落ち込みすぎはしないだろうか。
この先、何かものごとがうまくいったときには、おごりすぎはしないだろうか。
そのときに、励ましてくれたり、諭してくれたりする大人はそばにいらるだろうか。

一般的に、子どもの成長段階において、生まれてから幼児期までは母親の存在が、
幼少期から青年期にかけては父親の存在が、
青年期から成人までは親以外の第三者の大人の存在が必要だといわれます。

中学生のころから高校を卒業するくらいまでの間で、どういった大人との出会いがあって、どのような影響を受けるかで、大きく人生が変わるのです。
子どもたちそれぞれに対して、それぞれの個性を認めてくれる、そんな大人に出会ってほしいものです。
そして、大人になる前に、たくさんのことを学んでほしい。
無防備に世の中に出ていけば、傷つくことが多いから。

子どもたち。
人ってとても理不尽な生き物なんです。
たとえ良いことをしたとしても、何かを企んでいるのではないかと構えられたり、責められたりすることもあります。
しかも、今日の良い行いは、明日には忘れられてしまうでしょう。
だからといって腐ってはいけません。それでもなお、良いことをしなさい。

人って、弱いものをひいきにはするけど、強いものの後にしかついていかない。
せっかく、努力が報われて成功したとしても、いいことばかりじゃない。
うその友達と本物の敵を得ることになるから。
それでもなお、弱者のために戦いなさい。そして、成功しなさい。

何年もかけて築いたものが一夜にして崩れ去るかもしれない。
それでもなお、築きあげなさい。 (*参考文献:「逆説の10カ条」by ケント・キース)

そのとき、あなたは、はじめて人生の意味を知ることになるでしょう。
あなたの使命を知ることになるから。
なぜあなたが、この世の中に生まれてきたのかわかるから。
そのときが、あなたの本当のバースデーです。

出版社の編集者が取材で、ある僧侶のもとを訪ねたときのこと。
「仏教の心をひと言でいうならば、どういうことになるのでしょうか？」と彼は聞いたそうです。

僧侶の答えは、「このお茶のようなものです」。
ちょうど、そのタイミングでお茶が出されたので僧侶はそう答えたのです。
仏教の心はこのお茶のようなもの……。どうということだろう……。

僧侶は続けました。
「あなたがこのお茶を飲めば、このお茶はあなたの一部になります。私がこのお茶を飲めば、このお茶は私の一部になります。私になるか、あなたになるかは、紙一重の差なのです。」

もっと言えば、私があなたになってもおかしくなかったのです。目の前にいる人も自分だと思ってみる。すると優しくなれます。だから、あなたを大切にすることは私を大切にすることなのです。それが仏教の心です」

個人というのは他人の可能性のひとつであり、他人というのは自分の可能性のひとつである。これは、吉川幸雄さんの言葉です。

子どもたち。
もし私が、あなたにとっての無限の可能性のひとつになれたなら…
最高にうれしいなあ。

塾長 山田 大介